

序 文 ― 本増刊号の編集に当たって

2018年の『臨牀透析』の年間テーマは「透析医療におけるキュア&ケアのバランス」です。透析医療において、透析患者に全人的な医療を提供するためには、キュアとケアとは車の両輪でなければなりません。いずれか一方が欠けても、最善の医療を提供することが困難となります。

透析医療においては治療法自体についてのみならず、腎不全・透析療法に伴う合併症、さらには透析医療を取りまく社会的背景などへの対策・介入が必要となります。一方、そのいずれもが現在新たな局面を迎えています。透析療法自体について、透析導入をいかに安全に進めるかに始まり、アクセス、至適透析、さらには腹膜透析特有の種々の問題があり、これらは透析療法の歴史のなかで継続して問題となってきた点です。その一方で、広義の血液透析におけるオンラインHDFなど、治療方法自体の変革もみられます。

一方、腎不全・透析療法に伴う合併症について、循環器疾患、貧血、CKD-MBDなど以前から透析患者において重要な合併症は透析療法が完全な腎機能のサポートではないことに起因し、現在でも依然として大きな介入対象です。しかしながら近年、透析医療さらには腎不全治療において、さまざまな新規薬剤が開発・上市されてきています。こうした新規薬剤の開発によって、合併症治療においてはより確実な治療目標の達成が可能となりつつあります。

このようにキュアの側面においてはいくつかの新たな展開がみられており、透析患者の合併症の軽減、さらには良好な予後へつながってきています。しかしこうしたキュアも、実際には身体的・精神的なケアが必須であり、適切なケアがあつて初めてキュアのメリットが生きてくるのです。たとえば、CKD-MBDにおけるリンコントロールでは、新規リン吸着薬の処方だけではなく内服アドヒアランスが大きく影響していることは強く実感する点です。さらに、こうしたアドヒアランスや栄養療法などを含めたケアが、病態の改善だけではなくQOLにも大きなメリットをもっており、ひいてはキュアの成否を決定しています。

昨今、チーム医療がさまざまな観点から重視されてきています。透析治療はその黎明期からチーム医療がなくしては成り立たない医療であるということが認識されてきました。このような透析医療において、それぞれの職種・立場で「キュアとケア」という二つの視点をもつことが求められており、それが最終的にはよりよい医療につながっていくのです。

本特集では、透析治療、臓器別の合併症・並存症、透析医療で近年とみに問題となっている高齢化、長期透析患者、また災害・感染症対策、社会復帰など、透析医療・

透析患者を取り巻く幅広い課題について、キュアというケアという二つの視点からわれわれ透析医療に携わる医療者は何ができるのかについて、それぞれ専門の先生に執筆をお願いいたしました。

透析患者に問題が生じたときに本書を紐解いていただくことで、その問題解決において、全人的な医療の提供に役立つことを確信しています。

東京女子医科大学血液浄化療法科
花房 規男